

海尻山



醫王院時報

本山団参記念号 《その2》

発行所：海尻山医王院寺務所
〒 384-1301 長野県南佐久郡南牧村海尻 528
電話：0267-96-2631
Eメール：iouin@dia.janis.or.jp



海尻山
医王院

総本山比叡山延暦寺を参拝

先祖回向と被災地の早期復興を祈願

千日回峯行者 藤波源信大阿闍梨の御加持を頂く

平成二十三年十一月八日から十一日、六年ぶりに海尻山醫王院（住職・矢崎長勉／檀徒総代表・薩田敦）の本山団体参拝（団長・小池正彦／副団長・井出基近・井出基近）が実施された。参加者は四十二名。初日は、山内の諸堂を参拝した後、比叡山上の宿坊・延暦寺会館に宿泊した。二日目は、大阪市に向かい、道頓堀、心齋橋などを散策。夕刻には吉本新喜劇を楽しんだ。



▶ 折しも浄土宗の開祖・法然上人八百年遠忌、浄土真宗の開祖・親鸞聖人七五〇年遠忌に当たる今秋、両上人の修行の地である比叡山境内は多くの参拝客によって賑わっていた（比叡山延暦寺大講堂前）。



▲写真 藤波大阿闍梨より御加持をうける（延暦寺会館）

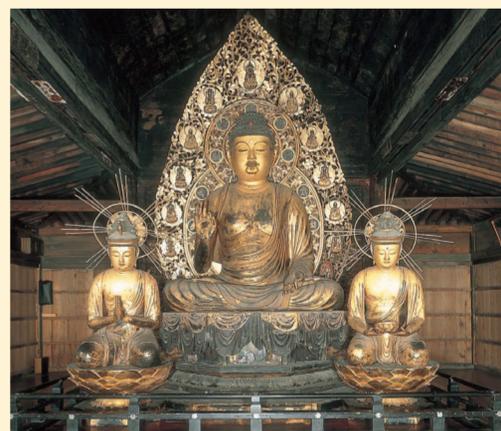
初日から好天に恵まれ、清々しい秋晴れの中、一行は比叡山各所を巡拝。参拝にあたり、小林祖承延暦寺副執行が挨拶、延暦寺一山壽量院住職の獅子王圓明師に案内を頂いた。

まず伝教大師最澄上人の御廟「浄土院」でお勤めを行った。続いて各祖師方の尊影が祀られている「大講堂」を参拝。ここでは、四年に一度の法会「法華大会広学暨義」が開催される。これは康保四年（九六七）より朝廷の宣旨をうけて行われる勅会であり、

現在でも天皇勅使を迎えて法会が行われている。阿弥陀堂では、参加者各家先祖のご回向と共に、本年三月に発生した東日本大震災の犠牲者への追悼の法要がなされた。その後、宿坊である延暦寺会館に場所を移し、千日回峯行者・藤波源信大阿闍梨より法話と御加持を頂戴した。藤波師は、自身の十二年籠山の修行について、千日回峯山で使用した草鞋や提灯などを披露しながら説明した。回峯行の中で最も過酷である九日間の断食・断水・断眠・断臥の「堂入り」について話が及ぶと、同師は「ひたすら専心に、お不動さん（不動明王）のご真言をお唱えいたします。意識も朦朧として、日々痩せ細っていくのが分かりますが、自分がこの行を乗り越えられるか否かは、仏さまに全て委ねるほかないのです。四

- つこの行の中、最も難しいのは「断眠」です。ふと魔が入り、意識を失う時がある。直ぐ横に、それを監視人がいて起こしてくれる。自らに課した修行であれ、決して一人では達成できません」といい、様々な人との関わり合い、縁によって、行が支えられていたことを実感し、仏縁の有り難さに感謝したという。参加者らは、熱心に同師の法話に聞き入っていた。
- また参加者それぞれに、藤波師より御加持と護符が授けられた（写真）。ある参加者は「法話の時は、穏やかな方だと思いましたが、御加持の時の阿闍梨さまの迫力には圧倒されました。行者さんのお力を頂きました」と語り、一千年を経て今なお続く生き比叡山の伝統に触れ、感動した様子であった。
- 参加者名簿
〔 〕内は地区・敬称略
- 【八那池】小池正彦・小池知子・小池倭夫・小池てる子・小池政六・小池みきじ【菅平】中嶋岸太郎・中嶋晴雄【海尻】井出龍一・井出節子・薩田敦・薩田絹子・井出松久・井出記代子・井出好人・井出幸恵・井出孝幸・井出ふくし・井出基近・井出久門・井出いそ子・井出久子・井出直美・井出章子・斎藤登志子・中山岑生・井出悦子【大芝】高見澤英俊・高見澤信子・高見澤やえ子【森下】高見澤敏明【板橋】吉澤茂弥・吉澤益江・吉澤武彦・吉澤春美・吉澤安則【野辺山】原寛・原あき子・薩田二三子・【川上】小池たみ子・小池ゆめ子（住職）矢崎長勉

三千院門跡



上) 極楽往生院
右下) 阿弥陀三尊坐像 (国宝)
左下) 極楽浄土を模した天井画

新年初祈禱のご案内

除夜の鐘と厄除祈願

大晦日に本年も、新年初祈願法要を行います。新しい年の厄除・開運祈願をご希望の方は、下記の要領にて、12月25日までに当山までお申し込み下さい。

○新年初祈願

- 日時：平成23年12月31日
23時45分～ 除夜の鐘
0時10分～ 新年初祈願法要
- 場所：醫王院本堂および鐘撞堂

○冥加料：二千円（一祈願）。祈禱木札を授与いたします。

※ 法要に欠席で、祈禱札の申し込みを希望される方は申し付けください。（元旦からお受け取りできます。）

○女性の大厄 33 歳
前厄 32 歳 (昭和 56 年生)
本厄 33 歳 (昭和 55 年生)
後厄 34 歳 (昭和 54 年生)

○女性の小厄 37 歳
前厄 36 歳 (昭和 52 年生)
本厄 37 歳 (昭和 51 年生)
後厄 38 歳 (昭和 50 年生)

○女性の厄年 19 歳
前厄 18 歳 (平成 7 年生)
本厄 19 歳 (平成 6 年生)
後厄 20 歳 (平成 5 年生)

○女性の厄年 61 歳
前厄 60 歳 (昭和 28 年生)
本厄 61 歳 (昭和 27 年生)
後厄 62 歳 (昭和 26 年生)

○男性の大厄 42 歳
前厄 41 歳 (昭和 47 年生)
本厄 42 歳 (昭和 46 年生)
後厄 43 歳 (昭和 45 年生)

○男性の厄年 25 歳
前厄 24 歳 (昭和 64 年生)
本厄 25 歳 (昭和 63 年生)
後厄 26 歳 (昭和 62 年生)

○男性の厄年 61 歳
前厄 60 歳 (昭和 28 年生)
本厄 61 歳 (昭和 27 年生)
後厄 62 歳 (昭和 26 年生)

※ 数え年：生まれた時点、基点となる最初の年を「1歳」とし、以降元日を迎えるごとにそれぞれ1歳ずつ加える



ふりがな： _____

氏 名： _____

住 所： _____

電話番号： _____

年齢性別： 男性・女性 () 歳 *数え年

祈 願： 厄難消除・家内安全・開運招福・交通安全

いづれかに○

商売繁盛・身体壮健・無病息災・当病平癒

学業成就・その他 ()

三千院は、伝教大師最澄上人が比叡山東塔南谷に草庵を開き、円融房と称したのをその起源とする。滋賀県東坂本梶井に里坊が営まれ、平安後期、堀川天皇第二皇子・最雲法親王が入室され、明治維新まで皇族出身者が住持する宮門跡となる。以来、寺地の変遷を繰り返して、明治維新後に京都大原に本坊を構える。大原の地は、平安時代初期、慈覚大師円仁が中国五台山から伝えた五会念仏により声明梵唄の発祥地となり、また極楽往生を願う人々の隠遁の地として往生極楽院を中心に念仏聖による不断念仏・引声念仏が盛んに行われ、天台浄土教の聖地となった。近年、極楽往生院の天井画が復元され、創建当時の極楽浄土が偲ばれる。

三千院門跡

住 所：京都市左京区大原来迎院町540

拝観時間：八時半～十七時（冬期十六時半まで）

拝 観 料：一般 700 円

詳しくは、HP (<http://www.sanzenin.or.jp/>) をご覧下さい。

ブツダの言葉

気は長く 勤めは堅く
色うすく (好色もほどほどに)
食細うして 心ひろかれ

慈眼大師天海大僧正「養生訓」

慈眼大師天海大僧正は、徳川家康、秀忠、家光の三代將軍に仕え、そのプレーンとして活躍した天台宗の僧侶である。長命であったことでも有名で、百八歳まで生きたとされる。

この句は、短気で女色を好んだ家光に対して説かれたもので、幕藩体制の完成者として高く評価される將軍・家光であれ、質素で品性を備えた人物であれと訓示されたのである。

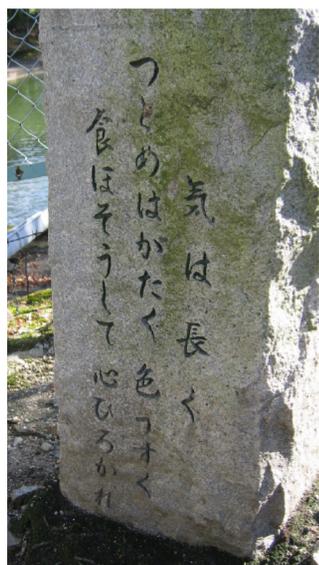
誰しもがそうスマートに生きたいと感じずにはいられない清々しい句である。「質素儉約」「少欲知足」などの言葉と共に、多くの日本人に共感される道徳・倫理感ではなからうか。

近年、これらの日本人特有の感覚は、海外でも賞賛されている。アフリカ人女性として初めてノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイ氏が、日本語の「もつたいない」という言葉に

感銘を受け、国連で「もつたいない」キャンペーンを展開したことは広く知られるところである。

さて先日、某製紙会社の若社長が、子会社数社から百億円超もの資金を借りて、使途不明となった事件があった。その額面にも驚かされるが、用途はキャンセルであったという。人間の貪欲には際限がない。ブツダは「遺教経」の中で「足ることを知らない人は、富んでいても貧しい。足ることを知っている人は、貧しくとも富んでいる。足ることを知らない人は、常に欲望に引き回されて、足ることを知っている人に同情される」と説いている。

欲望の限りのないのだ。それは、大企業の社長、いや天下の大將軍ですら満たすことができない。それを知らない者は苦しむと仏教ではいうのだ。



▲比叡山山麓・滋賀院門跡の石灯籠 (滋賀県大津市坂本)